

2024年4月5日
発行/日本共産党市議団地域版
自宅/市川市須和田2-12-3
fax 047-303-3025
携帯 090-6310-3294
メールアドレス
shimizu@jcp-ichikawa.com
ブログ・清水みな子を検索



日本共産党市川市議会議員

清水みな子

あおぞらメール

No.161

2月議会 国保、介護保険値上げに反対 教育問題を中心に一般質問

2月予算議会では、要望が実現している一般会計には賛成しましたが、国民健康保険、介護保険の値上げには反対し、とくだけ議員が反対討論を行いました。私は、教育問題（教員不足解消、生理の貧困のその後など）を中心に、3月11日一般質問を行いました。

不登校児童の居場所づくりに、仮称「スペシャルサポートルーム」を設置

（市）現在、ゆとろぎ相談室や保健室で過ごしている不登校児童が安心して過ごせる場所として、仮称「スペシャルサポートルーム」を常時開設したい。令和6年度に小学校6校をモデル校にして、試行運転する。

（要望）全国で不登校児童生徒は約30万人。設置場所や運営スタッフの人

員確保をしっかりと進めてもらいたい。

日本語指導を必要とする児童生徒（約200人、15か国語）への対応について

（市）児童生徒の日本語能力に応じてプログラムを組み合わせて指導している。県費負担教職員を10校に配置し、令和4年度は832回の通訳講師派遣を行っている。

（要望）県費負担教職員は18人に1人。少なすぎ

講師募集のチラシ
各所に掲示し効果は



（市）QRコードを載せたことで、登録数は増えている。免許を持っていない方でも、学校で仕事ができることを多くの方に周知できたと思う。大学に出向いて説明した。今後も様々なアイデアで講師募集したい。

ます。県に要望してください。また、子どもだけでなく、親子のケアが必要で、墨田区では手厚く対応していると聞きます。住む場所によって対応が変わるといふのは、不公平になります。浦安市の多文化共生推進プランも参考にしてください。

教職員の働き方について。定数に足りない学校が9校もある。その対策は



教職員の不安を取り除き、意欲を引き出せるよう、サポートし

ていく。

（要望）教員不足は喫緊の課題です。県は教職員確保に奨学金返済を肩代わりするという方針を出しました。市負担教職員についても努力を。

学校給食の磁器食器について。破損した場合の交換率は

（市）昨年の破損率は約8%で、調理員が毎日の洗浄後、食器をすべて確認し、異物混入などの給食事故防止に努めている。食器の交換については、昨年度、食器購入のための消耗品代として約1千万円を計上し、全体の7%程度を購入。適時交換している。

（要望）破損率が8%で、購入が7%。約1%は欠けたままということ。給食はほぼ毎日ご飯を食べっており、全国では有機米を使っている自治体もある。給食に有機米、有機野菜など検討してほしい。



視察

長崎県「諫早市美術・歴史館」 「長崎市まちづくりプロジェクト」

3月21・22日、長崎県諫早市と長崎市を視察しました。市川市は、昨年より、市立美術館構想の検



討されていますが、具体的ではありません。諫早市では、市町村合併を機に「歴史文化館整備事業」

の計画があり、10年間、様々な検討がなされ、文化団体などからも意見聴取を行い、「諫早市美術・歴史館」が開館。今年2月に10周年を迎えました。諫早市出身の「ウルトラセブン」の脚本家・市川森一氏の尽力もあり、子どもから大人まで市民に愛

3・11 さよなら原発集会在市川駅

東日本大震災から13年が立ちましたが、被災地ではいまだに、復興できていません。3月10日、市内5駅（市川駅、本八幡駅、下総中山駅、市川大野駅、行徳駅）で、同時に「さよなら原発集会」を開催しました。私は市川駅に参加し、70人以上の方が参加し、アピールしました。

最初に、合唱団プリマベラの合唱や、スコップ三味線の仲間たちが、集会を盛り上げてくれました。大震災の起こった同時刻に黙とうを捧げ、能登半島地震発生により苦しんでいる被災地へもエールを送りました。



される施設となっており、来館者は2月末現在28万6千人で、市民の要望も取り入れた様々なワークショップにも取り組んでいます。

長崎市では、「長崎市まちづくりプロジェクト」として、市内の5つの地域で特色を生かし、市民と行政が賑わいのまちづくりを行っていきます。歴史や文化などをどう活かすか地域で話し合い、様々な取り組みを行っています。なかでも「おもてなしトイレ」をつくるために、「長崎まちなか公共トイレ整備指針」を作成

し、安心して入れる明るいトイレが数多く設置されています。担当職員が胸を張って、トイレの話をしてくれました。

◎総合計画審議会 第3次基本計画を策定中

25年間の計画作成に、「私たちが想い描く2050年のまち」をテーマに、市内3か所でワークショップを開催。「すべての子どもが気軽に集える施設が整備されている」「地域コミュニティが機能し、災害の際に安全・迅速に非難ができるようになっていく」など、未来の市川市に想いを馳せた意見がたくさん出されました。それらをもとに審議していきます。

無料法律相談

◎4月9日（火）
担当 井出達希弁護士
◎5月14日（火）
担当 米山和希弁護士
午後2時から5時まで
相談時間はひとり30分。
予約は清水又は控室まで

《主な活動報告 3月》

☆3月3日 チャレンジドミュージカル

今年で14回目の公演。2日、3日と3回公演で100人以上の方が来場したということです。障がいのある人もない人も一緒になって創る、楽しむミュージカルをして広がっています。今年は総勢70人が参加。見る方も楽しくなる、感動する舞台でした。

☆3月16日 産フェスタ開催

4年ぶりの開催となりました。現代産業科学館を会場に、市内の様々な産業が一堂に会し、ところ狭しと、各ブースが工夫を凝らしてアピールしていました。天気も良く、たくさんの親子連れも来場し、楽しんでいました。



☆3月16日 中国分「学んでガッテン会」参加

2回目の開催です。今回のテーマは、「認知症を学ぼう」。中国分在住の認知症の研究をしているお医者さんが講師でした。アルツハイマー型認知症を研究し、大学の講義を聞いているようだ、という感想もありましたが、たいへん興味深いお話でした。带状疱疹やヘルペスウイルスが原因とのことで、「ワクチン接種をぜひ」と勧められました。私からは、市が带状疱疹ワクチン接種の助成を始めるという話をしました。

☆3月30日 市平和委員会の学習会に参加

丸山慎一県議から、「習志野降下訓練の意味と千葉県下の軍事基地」と題したお話を聞きました。

